

# InterSecVM/MW V7.0

## アップデート適用手順書

本書は下記の製品が対象です

InterSecVM/MW V7.0

2022年10月 1版

## 目次

はじめに .....	- 3 -
アップデートモジュール適用時の注意・制限事項 .....	- 4 -
スタンドアロン構成 .....	- 4 -
フェイルオーバークラスタ構成 .....	- 5 -
1. オンラインアップデートの実施手順 .....	- 7 -
2. オフラインアップデートの実施手順 .....	- 11 -
3. コマンドラインからのアップデートの実施手順 .....	- 15 -
4. RPM パッケージファイルの適用手順 .....	- 17 -
5. バックアップの実施 .....	- 19 -
商標について .....	- 20 -

## はじめに

本ドキュメントは、InterSecVM/MW V7.0（以下、MW と表記します）用に公開しているアップデートの適用手順について記載しています。

MW のアップデート適用は、以下のいずれかの方法で行うことができます。

### オンラインアップデート

オンラインアップデートは、MW に必要なアップデートモジュールをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し、Management Console 画面から適用します。

### オフラインアップデート

オフラインアップデートは、あらかじめ入手しておいたアップデートモジュールを Management Console 画面から適用します。

### コマンドラインからのアップデート

コマンドラインからのアップデートは、あらかじめ入手しておいたアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

### RPM パッケージファイルの適用

RPM パッケージファイルの適用は、MW 用アップデートモジュールの適用ではなく、rpm ファイルを Management Console 画面から直接インストールします。



各アップデートの手順について、記載している画面や SW 型番は一例です。  
InterSecVM/V7.0 においても同様の手順で実施いただけます。  
各製品の型番は以下の通りです。

製品名	型番
• InterSecVM/MW V7.0 for VMware	UL4651-601
• InterSecVM/MW V7.0 for Hyper-V	UL4651-721

## アップデートモジュール適用時の注意・制限事項

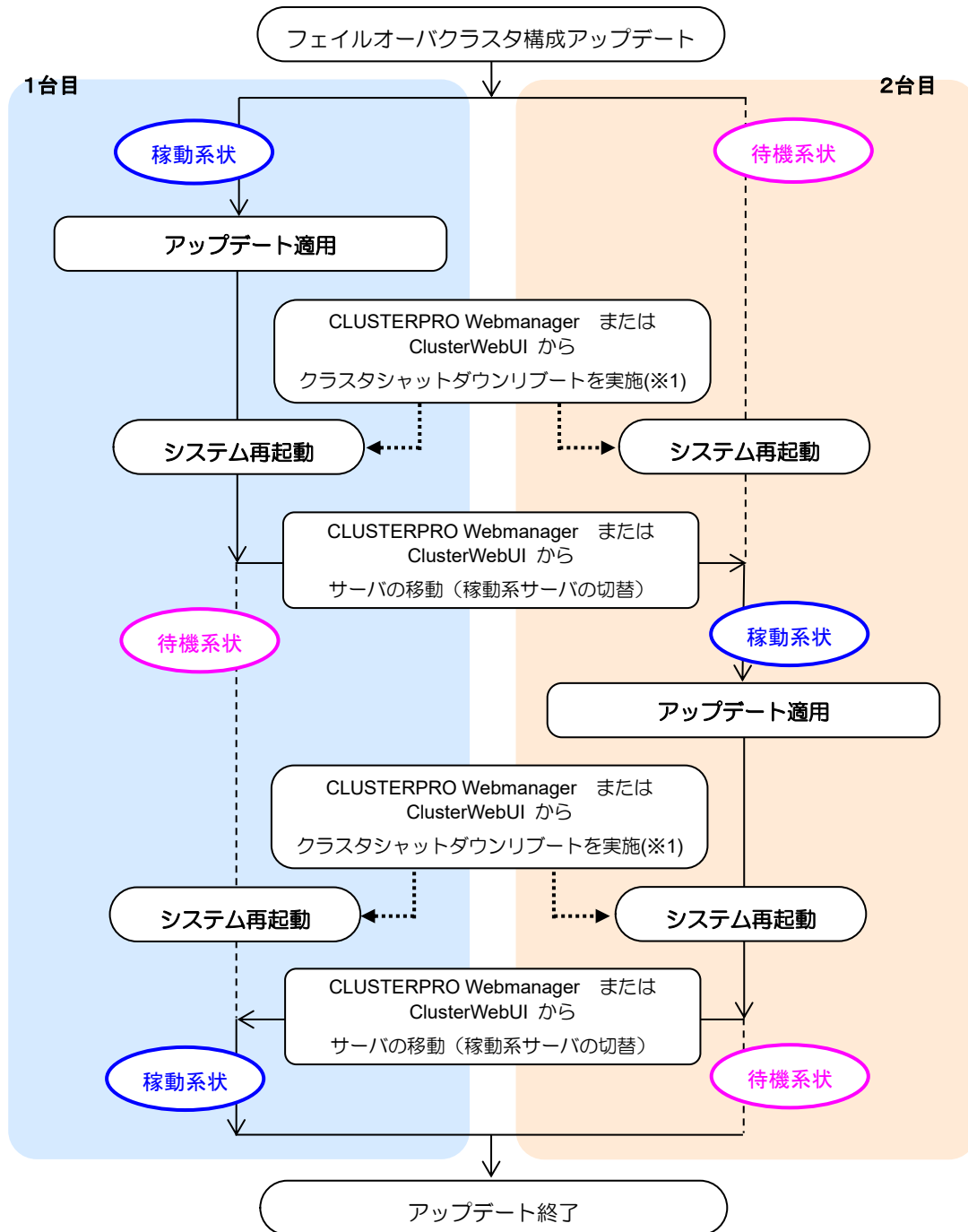
### スタンドアロン構成

- アップデートモジュール適用前や適用後には MW のバックアップ実行を推奨します。
- アップデートモジュールは、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュール適用後にシステムの再起動が必要な場合があります。  
システム再起動の要不要は、アップデートのリリースノートをご確認ください。

## フェイルオーバークラスタ構成

- アップデートモジュール適用前や適用後には MW のバックアップ実行を推奨します。
- アップデートモジュールは、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュールの適用は、適用するサーバを稼働系にして行ってください。
- アップデートモジュール適用後にシステムの再起動が必要な場合があります。  
システム再起動の要不要は、アップデートのリリースノートをご確認ください。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は必ずクラスタシャットダウンリポートをしてください。  
オンラインアップデートやオフラインアップデートを実施した場合は、アップデートモジュール適用毎にクラスタシャットダウンリポートが必要です。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は、必ず稼働系の状態のままクラスタシャットダウンリポートしてください。
- クラスタシャットダウンリポートは、必ず、Cluster WebUI 画面または CLUSTERPRO Webmanager 画面から行ってください。また、クラスタシャットダウンリポートは、稼働系サーバと待機系サーバとも同時に行ってください。

フェイルオーバークラスタ構成時の両系サーバにおける適用の流れは次のとおりです。



※1 システムの再起動が不要なアップデートモジュールのみ適用する場合は、上記手順中のクラスタシャットダウンレポートは、行う必要はありません。

## 1. オンラインアップデートの実施手順

オンラインアップデートは、MW に必要なアップデートモジュールをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。すべての操作は、Management Console(システム管理者)画面から行うことができます。



オンラインアップデートを行われる場合は、MW がインターネット上のサーバに http プロトコルにて接続可能な環境であることが必要です。

- (1) クライアント PC から Management Console(システム管理者)にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

Management Console のセキュリティモードがレベル 1 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL にホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスを指定してください。

- (2) 「パッケージ > オンラインアップデート」画面を開いてください。

InterSecVM/MW V7.0 Management Console  
Host: hostname2.mw.qnes.local

システム管理者

パッケージ

パッケージ

オンラインアップデート

オンラインアップデート

オフラインアップデート

オフラインアップデート

手動インストール

手動インストール

パッケージの一覧

インストールされているパッケージの一覧

ログアウト

NEC Copyright(C) NEC Corporation 2000-2022

## オンラインアップデート

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[\[戻る\]](#) [\[ヘルプ\]](#)

最終更新日付：なし

[最新情報に更新](#)

### ■ アップデートモジュール一覧

公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択
アップデートモジュールを取得していません					

### ■ オプション設定

#### 認証設定

- ユーザ認証を行う

ユーザID：

パスワード：

サポートID：

型番： UL

#### ダウンロード設定

- プロキシを使用する

プロキシアドレス：

プロキシポート番号：

- 取得済みのモジュールを再取得する

[設定](#)

NEC Copyright(C) NEC Corporation 2000-2022



「ユーザ認証を行う」のチェックは不要です。  
ユーザID、パスワード、サポートID、型番の設定も不要です。



アップデート公開サイトからアップデート情報が取得できたら、「アップデートモジュール一覧」に表示されます。（以下のアップデート情報は、実際のアップデート情報とは異なる場合があります）

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択	
2020/11/01	1.0	InterSecVM/MW for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。[詳細情報]	必要	<input type="checkbox"/>		未
2020/11/15	1.1	InterSecVM/MW for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.1 をリリースします。[詳細情報]	不要	<input type="checkbox"/>		未



アップデート情報の各内容は以下のとおりです。

- 「公開日」 アップデートが公開された日付を表示します
- 「Rel.」 アップデートバージョンを表示します
- 「概要」 アップデート名称を表示します
- 「再起動」 アップデート適用後の再起動要不要を表示します  
(アップデートモジュール Rel1.0 適用後表示されます)

また、[取得]、[適用] ボタン欄は、それぞれアップデートのダウンロードの有無、アップデート適用の有無を表示します。

(4) 必要なアップデートモジュールを取得してください。

アップデートモジュールの[取得]欄のチェックボックスをチェックして、[取得]ボタンをクリックしてください。

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択	
2020/11/01	1.0	InterSecVM/MW for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。[詳細情報]	必要	<input checked="" type="checkbox"/>		未
2020/11/15	1.1	InterSecVM/MW for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.1 をリリースします。[詳細情報]	不要	<input type="checkbox"/>		未



[取得]をチェックすると、取得が必要な他のアップデートモジュールについても自動的に取得対象としてチェックされます。

アップデートモジュール取得確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。

取得に成功すると、アップデートモジュール一覧の[取得]欄は、“済”と表示されます。

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択	
2020/11/01	1.0	InterSecVM/MW for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。[詳細情報]	必要	済	<input type="checkbox"/>	
2020/11/15	1.1	InterSecVM/MW for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.1 をリリースします。[詳細情報]	不要	<input type="checkbox"/>		未

- (5) アップデートモジュールの適用を実行してください。  
 アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択	
2022/11/01	1.0	InterSecVM/MW V for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。[詳細情報]	必要	済	<input checked="" type="checkbox"/>	
2022/11/15	1.1	InterSecVM/MW V for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.1 をリリースします。[詳細情報]	不要	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	未



[選択]をチェックすると、適用が必要な他のアップデートモジュールについても自動的に選択対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデートモジュール適用実行を促すメッセージが表示されます。

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。  
 なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。

アップデート適用

最終更新日付: 2022/09/11

最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択	
2022/11/01	1.0	InterSecVM/MW V for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。[詳細情報]	必要	済	<input type="checkbox"/>	

- (6) アップデートを行う場合は、「アップデート適用」ボタンをクリックし、アップデートモジュールの適用を行ってください。
- (7) 以下の場合は、システムの再起動を行ってください。  
 アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合



フェイルオーバークラスタ構成の場合、ClusterWebUI 画面、または CLUSTERPRO Webmanager 画面から全サーバをクラスタシャットダウンリブートしてください。

## 2. オフラインアップデートの実施手順

オフラインアップデートは、あらかじめ入手しておいたアップデートモジュールを Management Console 画面から適用します。オフラインアップデートでは、アップデートモジュール適用時にインターネットへの接続が可能な状態である必要はありません。

ここでは、あらかじめ入手した MW 用アップデートモジュール「UL4651-501\_UpdateModule-1.0.tgz」を DVD-R(CD-R)メディアなどに格納しているものとして、オフラインアップデート手順についてご説明します。

- (1) クライアント PC から Management Console(システム管理者)にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

Management Console のセキュリティモードがレベル 1 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL にスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスを指定してください。

- (2) 「システム > ディスク」の /dev/dvd デバイスの「詳細」画面から、/dev/dvd を /media/dvd に接続(マウント)してください。
- (3) 「パッケージ > オフラインアップデート」画面を開いてください。

InterSecVM/MW V7.0 Management Console  
Host: hostname2.mw.qnes.local

システム管理者

パッケージ

ディスク  
ドメイン情報  
Webサーバ  
メールサーバ  
サービス  
パッケージ  
システム  
Management Console

ログアウト

パッケージ

オンラインアップデート  
オンラインアップデート

オフラインアップデート  
オフラインアップデート

手動インストール  
手動インストール

パッケージの一覧  
インストールされているパッケージの一覧

NEC Copyright(C) NEC Corporation 2000-2022

(4) DVD-R を参照してください。

「ディレクトリ」に DVD-R をマウントしているディレクトリ /media/sr0 を入力し、[参照]をクリックしてください。

「指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧」に、アップデート情報が表示されます。  
(オフラインアップデートでは、パッケージ名は表示されません)

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	適用
2011/01	1.0	InterSecVM/MW V for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。	dovecot-devel-2.x.xx.x-x.qk7.x86_64 dovecot-2.x.xx.x-x.qk7.x86_64 mwmctl-0.2-xx_PD.i386 wbmcap-10.x-0.x.vmmw60.noarch perl-Time-Piece-1.xx.x-xxx.el7.x86_64 wbmcap-libs-0.1-x.x86_64 wbmcap-libs-fml-0.1-x.x86_64 mailalert-0.3-xx_dove.x86_64 dovecot-pigeonhole-2.x.xx.x-x.qk7.x86_64	<input type="checkbox"/>

(5) アップデートモジュールの取得を実行してください。

アップデートモジュールの[適用]欄のチェックボックスをチェックして、[適用]ボタンをクリックしてください。

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	適用
2011/01	1.0	InterSecVM/MW V for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。	dovecot-devel-2.x.xx.x-x.qk7.x86_64 dovecot-2.x.xx.x-x.qk7.x86_64 mwmctl-0.2-xx_PD.i386 wbmcap-10.x-0.x.vmmw60.noarch perl-Time-Piece-1.xx.x-xxx.el7.x86_64 wbmcap-libs-0.1-x.x86_64 wbmcap-libs-fml-0.1-x.x86_64 mailalert-0.3-xx_dove.x86_64 dovecot-pigeonhole-2.x.xx.x-x.qk7.x86_64	<input checked="" type="checkbox"/>

アップデートモジュールを MW のローカルディスクに格納するメッセージが表示されますので [OK] をクリックしてください。



参照しているディレクトリにアップデートモジュールが複数ある場合、[適用] をチェックしたアップデートのみが、アップデート適用対象となります。未適用のアップデートが複数ある場合は、アップデートバージョンが古いものから順にすべて適用してください。

- (6) アップデートモジュールの適用を実行してください。  
アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■ アップデートモジュール一覧					
公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択
2011/11/01	1.0	InterSec VM/MW V for VMware/Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。 <a href="#">[詳細情報]</a>	必要	済	<input checked="" type="checkbox"/>



[選択]をチェックすると、適用が必要な他のアップデートモジュールについても自動的に選択対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。  
なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。

アップデート適用

最終更新日付: 2022/09/11

最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	取得	選択	
2022/11/01	1.0	InterSecVM/MW V[?] for VMware Hyper-V アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。[ <a href="#">詳細情報</a> ]	必要	済	<input type="checkbox"/>	

- (7) Rel1.0 適用後、アップデートを行う場合は、「アップデート適用」ボタンをクリックし、アップデートモジュールの適用を行ってください。
- (8) 以下の場合は、システムの再起動を行ってください。  
アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合



フェイルオーバークラスタ構成の場合、ClusterWebUI 画面、または CLUSTERPRO Webmanager 画面から全サーバをクラスタシャットダウンリブートしてください。

### 3. コマンドラインからのアップデートの実施手順

コマンドラインからのアップデートは、あらかじめ入手しておいてアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

コマンドラインからのアップデートでは、複数のアップデートをシステムの再起動なしに適用することができます。システムの再起動は、すべてのアップデートを適用した最後に行うことができます。

ここでは、あらかじめ入手した MW 用アップデートモジュール「UL4651-601\_UL4651-721\_UpdateModule-1.0.tgz」を MW の/tmp ディレクトリにコピーされているものとして説明します。

- (1) サービスを停止させてください。

Management Console「サービス」画面からすべてのサービスを停止してください。

ただし、ログインに使用するサービス(sshd)、フェイルオーバークラスタ構成の場合はクラスタプロ(CLUSTERPRO X)サービスや sshd サービスは停止しないでください。

- (2) MW にログインしてください。



重要

アップデートの実行は、root アカウントで行う必要があります。  
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。  
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

```
# su - root
```

- (3) /tmp ディレクトリに移動し、アップデートモジュールを展開してください。

```
# cd /tmp  
# tar xvfz UL4651-601_UL4651-721_UpdateModule-1.0.tgz
```

UL4651-601\_UL4651-721\_UpdateModule-1.0 ディレクトリが作成されます。

- (4) UL4651-601\_UL4651-721\_UpdateModule-1.0/command ディレクトリに移動してください。

```
# cd UL4651-601_UL4651-721_UpdateModule-1.0/command
```

- (5) アップデートコマンドを実行してください。

```
# perl MailWebServer_UpdateModule.pl
```

アップデートの実行状態が表示されます。

```
---Script Start-----  
アップデート情報が表示されます  
---Script End-----
```

- (6) 以下の場合は、システムの再起動を行ってください。

- ① アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合



フェイルオーバークラスタ構成の場合、ClusterWebUI 画面、または CLUSTERPRO Webmanager 画面から全サーバをクラスタシャットダウン/リブートしてください。

- (7) サービスを起動してください。

(1)で停止したサービスを Management Console「サービス」画面から起動してください。



## 4. RPM パッケージファイルの適用手順

RPM パッケージファイルの適用は、MW 用アップデートモジュールの適用ではなく、rpm ファイルを直接インストールします。

ここでは、あらかじめ入手した MW 用の rpm ファイルを DVD-R(CD-R)などのメディアに格納しているものとして、RPM パッケージファイルの適用手順についてご説明します。

- (1) クライアント PC から Management Console(システム管理者)にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

Management Console のセキュリティモードがレベル 1 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL にホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスを指定してください。

- (2) 「システム > ディスク使用状況」の /dev/sr0 デバイスの「詳細」画面から、/dev/sr0 を /media/sr0 に接続(マウント)してください。
- (3) 「パッケージ > 手動インストール」画面を開いてください。

InterSecVM/MW V7.0 Management Console  
Host: hostname2.mw.qnes.local

システム管理者

パッケージ

パッケージ

オンラインアップデート  
オンラインアップデート

オフラインアップデート  
オフラインアップデート

手動インストール  
手動インストール

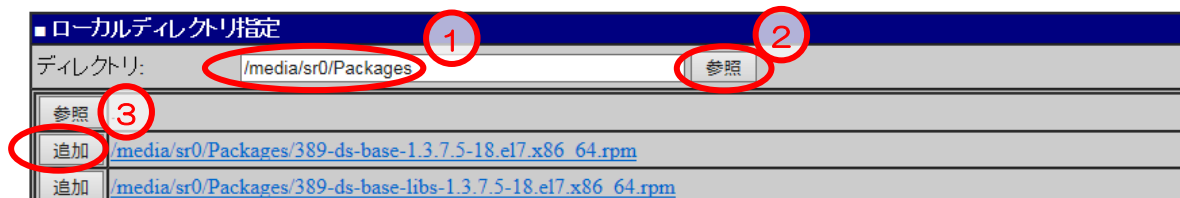
パッケージの一覧  
インストールされているパッケージの一覧

NEC Copyright(C) NEC Corporation 2000-2022

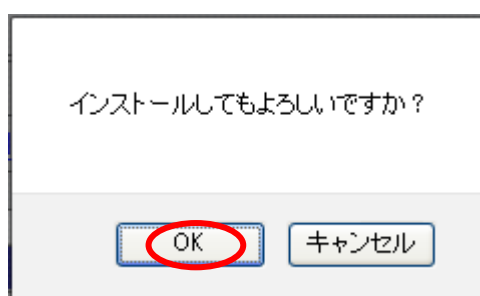
(4) DVD-R を参照してください。

「ディレクトリ」に DVD-R をマウントしているディレクトリ /media/sr0 を入力し、[参照]をクリックしてください。

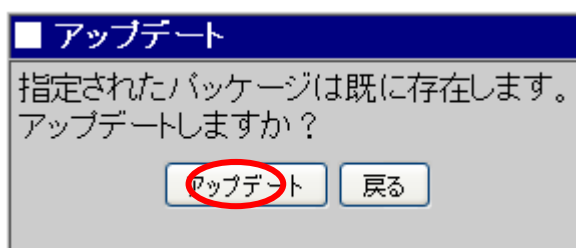
指定されたディレクトリに含まれる rpm ファイルが表示されます。



(5) 適用する rpm ファイルの[追加]をクリックしてください。



インストール確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。



適用する rpm ファイルがアップデートされる場合は、アップデート確認のメッセージが表示されますので[アップデート]をクリックしてください。

## 5. バックアップの実施

アップデートモジュールを適用する前や、適用した後には、MW のバックアップを行われることを推奨します。

アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻ることになった場合、システムの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、バックアップを行って下さい。



バックアップデータをリストアする場合、MW のアップデート適用状態はバックアップ実行時と同じ状態にされていることを想定しています。例えば、アップデート Rel.1.2 適用状態でバックアップしたデータは、同じく Rel.1.2 適用状態でリストアされることを想定しています。

バックアップ、リストアについては、ユーザーズガイドや Management Console のオンラインヘルプに詳しい説明がございます。

## 商標について

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。